

葵 祭

一二三册子

初めて、葵祭を見學せり。總勢五百名以上、平安朝貴族の雅なる裝束を纏ひ、華やかに飾り飾りつけたる牛四頭に牛車二基、供奉^{ぐぶ}たちの乗る馬三十六頭、京都御所より上賀茂神社へと練り歩く。起源は欽明天皇の御代なり。嵯峨天皇の御代には國家的行事として隆盛を極め、その後盛衰を繰り返しし後、明治時代、舊儀に再興せられしといふ。

觀覽席後方には外國人觀光客も數多居り。いよいよ始まりて列を眺むるに、供奉たちの歩く姿に大いに落膽せり。殆どの者たちの姿勢および歩の進め方の悪しき事甚だし。往時の様子とはおよそかけ離れしものと思はるるなり。王朝繪卷の夢も破るる心地こそしぬれ。多くは臨時に雇はれたる者とはいへども、あたら雅の裝束ととのへたるに豈空しからざらむや。外國人觀光客も見詰むる手前、恥づかしきこと限りなし。なれど、かくなる傳統行事を守り受け繼ぐ御方々の苦勞を思へば、多少の難は、致し方なしとすべきか。

(令和五年六月二十日受附)